


IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第154回)

「世界デジタル政府ランキング」、1位は2017年以来のシンガポール、日本は11位に

2025.01.21



昨年12月はじめ、「世界デジタル政府ランキング、1位は2017年以来のシンガポール、日本は11位」という報道が話題を集めた。2位は英国、3年連続1位のデンマークは3位に下落し、日本は前回と同様の11位だったという。



**『働き方改革・業務改善』でお悩みの方に
おすすめ資料をご紹介します!**

資料ダウンロードはこちら >

日本11位。1位はシンガポール、3年連続1位の3位に

この「世界デジタル政府ランキング」は、早稲田大学総合研究機構 電子政府・自治体研究所が行っているもので、2005年に始まり、今年で19回目。「世界デジタル政府ランキング2024年版公開」によれば「発表のポイント」として次の3つが挙げられている。引用しつつ紹介したい。

1. シンガポールが2017年以来の1位に。昨年まで3年連続で1位だったデンマークは3位で、サウジアラビアとタイがデジタル先進国トップ20の仲間入り
2. 日本は昨年に引き続きトップ10に及ばず11位。市民中心の行政サービス、標準化、高齢化対策などSDGs(持続可能な開発目標)の遅れが目立つ
3. ランキング上位国はより効率化や生産性の向上、国民のデジタル格差対応に資する行政サービスを重視する特徴がある

シンガポールが1位といえば以前、本連載の「デジタルツインって何？」で、シンガポールの「バーチャル・シンガポール」プロジェクトを紹介した。スマートシティのはしりといわれ、3Dモデル上でさまざまなシミュレーションが可能で、環境や防災などのシミュレーションからインフラ・エネルギー管理など幅広い分野での活用をめざすものだ。シンガポール市街地で開催されるF1レースでも、何か起きた時のために観客が持つセンサー端末からの情報を基に人の流れを表示、避難経路が策定

されるという話だった。

この一方、日本は2023年に初めてトップ10から外れた。要因として、思いつくのはトラブル続きのマイナンバーカード関連や業務における生成AIの活用の遅れなどである。2023年の「発表のポイント」には、「日本は国民視点のデジタル化、ならびに行財政改革推進に十分な進捗がみられず、調査開始18年目にして初めてトップ10圏外に。また、日本は2年前に発足のデジタル庁はコロナ、健保のデジタル化などで対応トラブルが見られ、成果が不十分」とある。

残念ながら、日本は今回も圏内に戻ることができず、前年と同じ11位にとどまっている。急速な発展と普及が国際社会全体の重要な課題となる生成AIについて世界平和を議論していく「広島AIプロセス」を先立って推し進める立場からも、ゆゆしき結果と感じる。

「世界デジタル政府ランキング」とは？… 続きを読む